

君の伴走者でありたい

ゝ 北野小学校持久走大会

北野小学校長 丹羽 郁人

君は ふうつと大きく息を吐く。
全身が心臓のようだ。
ドクン ドクン。
逃げ出したいくなっているだろう。
だが、引き締まった顔だ。
口を真一文字に結び、真っ直ぐ前を見ている。

高らかな号砲が
冷えた空気に響き渡る。
一斉に飛び出す。
色鮮やかなシューズが、地球をつかまえる。
北野の地を、ふるさとを
君は、駆ける。

走る。走る。
それだけのことなのに。
走る。走る。
それだけのことなのに。
ぼくの心をつかんで離さない。

君が走る。
君が走る。

君が生まれた日のこと。
はじめて言葉をしゃべった日のこと。
はじめて立ち上がった日のこと。
走る君に、その日の君が重なる。
今は もう
吐く息は 荒々しく
振る腕は 力強く
そのまなざしは 逞しい。
君は、その道を踏みしめ
冒険に満ちた人生へと
走り出す。

私は
君の伴走者でありたい。
いつも。
そして いつまでも。

